

### 3. 公共施設の状況

#### (1) 公共施設の分類

本町が保有する公共施設等のうち、公共施設（建物）とインフラ系施設を対象とします。公共施設（建物）については、下図のとおり分類します。

インフラ系施設については、道路、橋梁、公園、上下水道施設の4類型を対象として現状等の把握や基本的な方針を検討します。

なお、公園の取り扱いについては、公共施設（建物）とインフラ系施設のそれぞれで対象としています。町民のニーズなどを踏まえた公園内建築物と公園内でも建築物にあたらない構造物に区分しています。

#### ■ 公共施設等の分類

大分類	分類	主な施設
公共施設 (建物)	01.行政施設	役場庁舎など
	02.保健・福祉施設	保育園、子育て支援センター、デイサービスセンターなど
	03.医療施設	病院、診療所など
	04.地域会館	地域会館、振興会館、生活改善センターなど
	05.町営住宅	町営住宅など
	06.産業・観光施設	情報交流物産館丘の駅、地域バイオマス利活用施設など
	07.社会教育施設	公民館、図書館など
	08.体育施設	総合体育館、スキー場、プールなど
	09.学校教育施設	小中学校、給食センターなど
	10.教職員住宅	教員住宅、職員住宅など
	11.消防施設	消防本部庁舎、分団格納所など
	12.公園施設	公園の管理人詰所、トイレなど
	13.環境衛生施設	斎場、浄化センター、リサイクルセンターなど
	14.その他の施設	車両センター、バス待合所など
施設 インフラ系	道路	町道、農道、林道
	橋梁	橋梁
	公園	都市公園
	上下水道	管渠・ポンプ施設・浄水場など

## (2)公共施設(建物)の状況

### ①全体の概要

さまざまな住民サービス活動（事業活動）に用いられる資産を、そのサービスに比して分類すれば、次のとおりです。

本町の公共施設（建物）延床面積（以下面積、単位は㎡と表記）の合計は約 24 万㎡となっています。延床面積の内訳は、学校教育施設が 22.7%、町営住宅が 17.9%、次いで医療施設の 15.7%となっています。

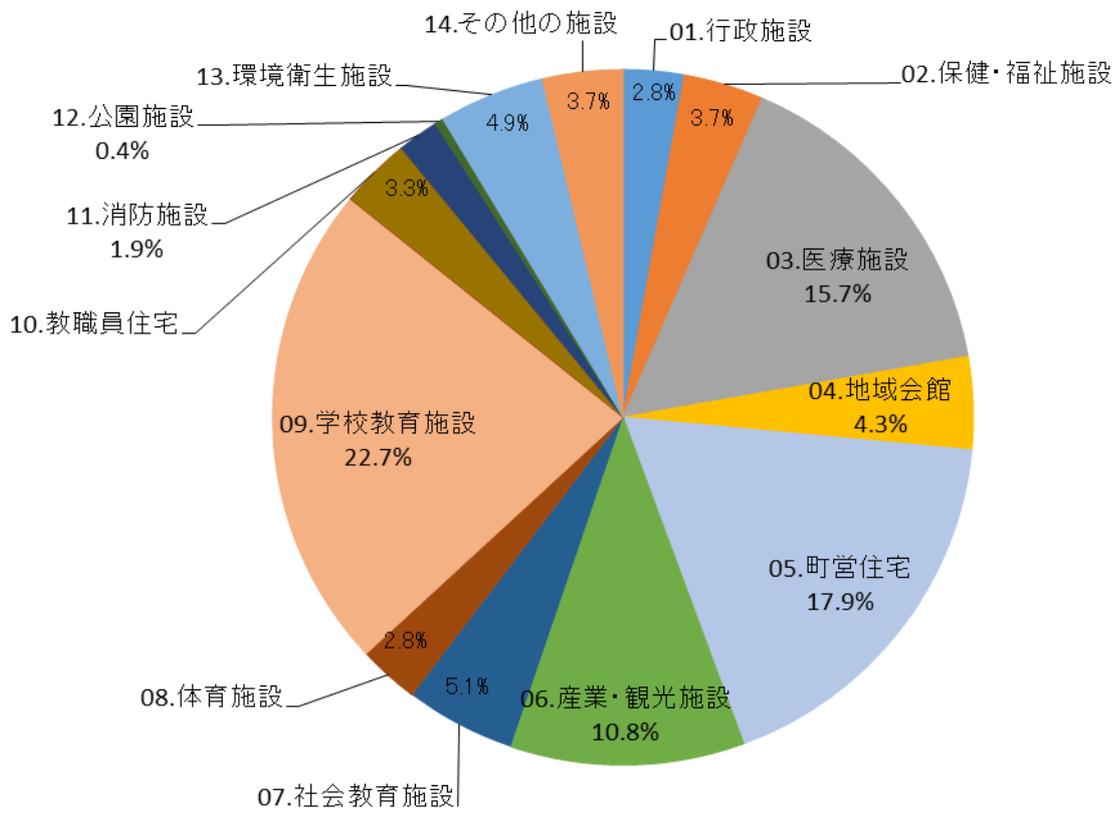
なお、公共施設（建物）の面積は施設本体だけではなく、付帯施設（物置等）も含まれます。また、施設数とは、病院や学校など、複数の棟で構成される施設を 1 件の施設として計上したものです。

### ■施設分類別の延床面積とその構成比

施設分類	施設数（件）	棟数（棟）	延床面積（㎡）	構成比（%）
01. 行政施設	2	6	6,821	2.8%
02. 保健・福祉施設	11	18	8,960	3.7%
03. 医療施設	14	20	37,732	15.7%
04. 地域会館	53	56	10,410	4.3%
05. 町営住宅	149	149	43,155	17.9%
06. 産業・観光施設	43	85	26,068	10.8%
07. 社会教育施設	13	13	12,158	5.1%
08. 体育施設	13	13	6,841	2.8%
09. 学校教育施設	22	54	54,585	22.7%
10. 教職員住宅	95	95	7,864	3.3%
11. 消防施設	16	16	4,480	1.9%
12. 公園施設	20	20	912	0.4%
13. 環境衛生施設	19	25	11,900	4.9%
14. その他の施設	54	59	8,789	3.7%
総計	524	629	240,675	100.0%

※数値は平成 28 年 3 月 31 日現在の公有財産台帳及び固定資産台帳、建物災害共済基礎データ等を参考にしています。

## ■分類別施設の延床面積割合



## ②人口一人当たりの面積

本町の人口一人当たりの公共施設（建物）の延床面積は、13.48 m<sup>2</sup>となっております。人口は平成27年1月1日現在の17,852人（他団体との比較のため）で計算しています。

### ■人口一人当たりの面積

施設分類	施設数(件)	延床面積(m <sup>2</sup> )	人口一人当たりの延床面積(m <sup>2</sup> )
01.行政施設	2	6,821	0.38
02.保健・福祉施設	11	8,960	0.50
03.医療施設	14	37,732	2.11
04.地域会館	53	10,410	0.58
05.町営住宅	149	43,155	2.42
06.産業・観光施設	43	26,068	1.46
07.社会教育施設	13	12,158	0.68
08.体育施設	13	6,841	0.38
09.学校教育施設	22	54,585	3.06
10.教職員住宅	95	7,864	0.44
11.消防施設	16	4,480	0.25
12.公園施設	20	912	0.05
13.環境衛生施設	19	11,900	0.67
14.その他の施設	54	8,789	0.49
総計	524	240,675	13.48

### (3)資産老朽化の状況(全体)

公共施設等の老朽化率は以下の計算式で表すことができます。老朽化率は100%に近いほど老朽化が進んでいると言えます。平均的な資産老朽化比率は、35%~50%程度とされています。

$$\text{老朽化率} = \text{減価償却累計額} / \text{取得価額（再調達価額）}$$

この計算式を用いて現在の八雲町の資産分類ごとの老朽化率を示すと、下表のとおりとなります。

公共施設等における老朽化率は全体で51.0%となっています。医療施設や消防施設は比較的新しい施設が多く、老朽化率は低くなっています。一方で、地域会館や教職員住宅は老朽化率が80%台と高く、今後の建て替え等の検討が必要になります。

#### ■施設分類別の価額及び老朽化率

施設分類	取得価額/ 再調達価額 (千円)	減価償却累計額 (千円)	期末帳簿価額 <sup>1</sup> (千円)	老朽化率 (%)
01.行政施設	1,159,098	758,377	400,721	65.4%
02.保健・福祉施設	1,926,137	1,123,601	802,536	58.3%
03.医療施設	11,012,858	3,723,900	7,288,958	33.8%
04.地域会館	1,152,116	1,018,897	133,219	88.4%
05.町営住宅	4,318,703	2,761,418	1,557,285	63.9%
06.産業・観光施設	3,837,754	1,954,580	1,883,174	50.9%
07.社会教育施設	2,164,021	1,189,221	974,800	55.0%
08.体育施設	1,640,011	690,488	949,523	42.1%
09.学校教育施設	10,868,723	6,170,214	4,698,509	56.8%
10.教職員住宅	953,054	788,039	165,015	82.7%
11.消防施設	1,075,236	291,685	783,551	27.1%
12.公園施設	243,241	166,322	76,919	68.4%
13.環境衛生施設	4,726,980	2,067,293	2,659,687	43.7%
14.その他の施設	1,415,389	1,008,755	406,634	71.3%
総計	46,493,321	23,712,790	22,780,531	51.0%

※期末帳簿価額は平成28年3月31日現在の金額を記載しております。

※財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に基づき算出しております。

<sup>1</sup> 期末帳簿価額…建物や物品などの固定資産について、取得価額または再調達価額から減価償却累計額を除いた金額。時間の経過や使用により価値が減少した残りの資産価値を示す。

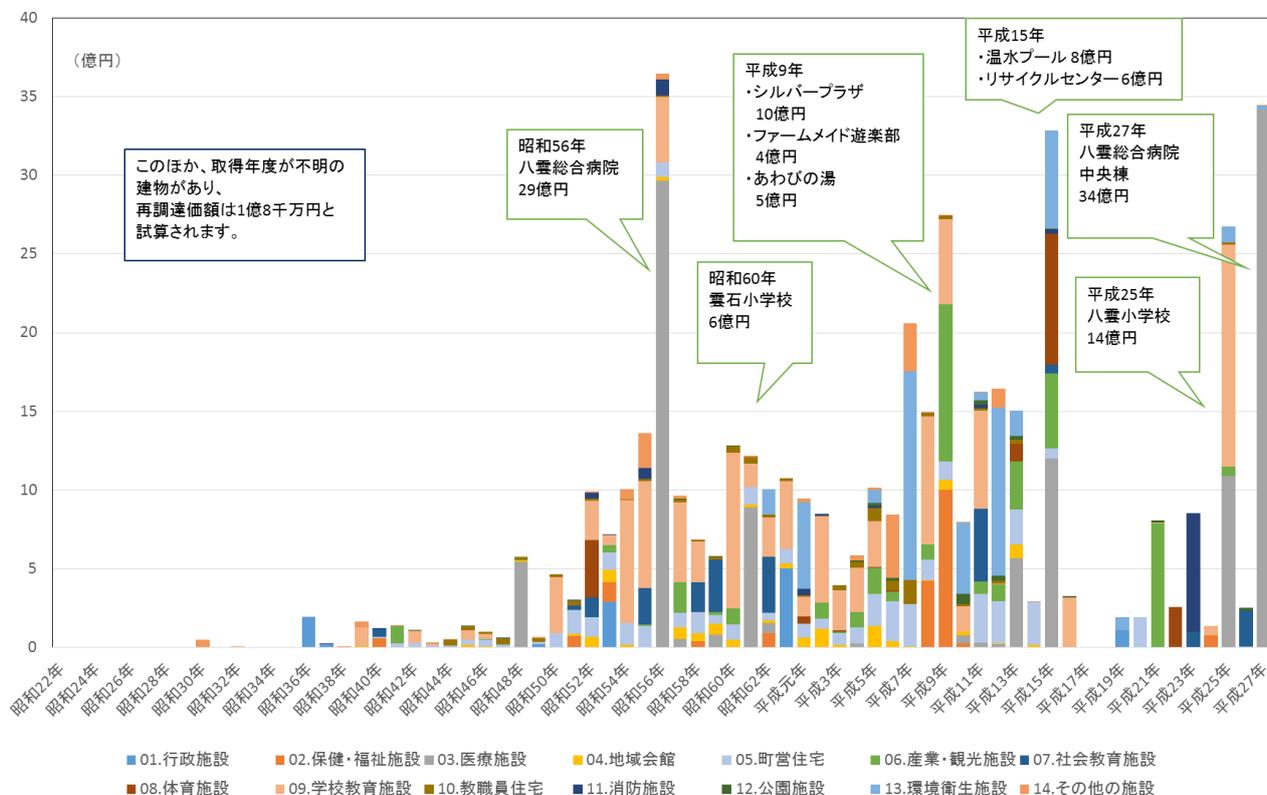
## (4)取得年度別の建物取得価額

下記のグラフは、本町の公共施設（建物）の取得価額（建築価額）を取得年度ごとに積み上げたものです。全体としては、昭和50年代の高度成長期からバブル期を経た平成15年頃までに建物の建設が集中してきたことがわかります。

施設分類別の内訳を見ると、医療施設や学校教育施設は建築価格の金額も大きく、施設全体の中でも大きなウエイトを占めていることがわかります。また、個別の施設では、保健・福祉施設や産業・観光施設、体育施設、環境衛生施設などにも、規模が大きく取得価額が高額なものがあります。

一方で、住宅はコンスタントに建設されていますが、建築価額としては規模がそれほど大きくないことがわかります。

### ■取得年度別・施設分類別の取得価額



## (5)公共施設(建物)の地域別分布状況

公共施設(建物)を地域別に見ると、八雲地域では総延床面積が約 17.4 万㎡、熊石地域では約 6.6 万㎡となっています。

それぞれの地域の内訳をみると、八雲地域で学校教育施設が21.4%、医療施設が19.2%、町営住宅が15.3%となります。八雲地域の医療施設が多いのは、八雲総合病院の占める割合が大きいためと考えられます。

一方、熊石地域では、学校教育施設が26%、町営住宅が24.8%とそれぞれ約4分の1ずつを占め、次いで産業・観光施設の15.3%と続きます。

### ■地域別・施設分類別の延床面積とその構成比

施設分類	八雲地域			熊石地域		
	施設数 (件)	延床面積 (㎡)	構成比 (%)	施設数 (件)	延床面積 (㎡)	構成比 (%)
01.行政施設	1	4,920	2.8%	1	1,901	2.9%
02.保健・福祉施設	7	6,812	3.9%	4	2,148	3.2%
03.医療施設	5	33,432	19.2%	9	4,300	6.5%
04.地域会館	43	8,481	4.9%	10	1,929	2.9%
05.町営住宅	96	26,682	15.3%	53	16,473	24.8%
06.産業・観光施設	21	15,893	9.1%	22	10,175	15.3%
07.社会教育施設	10	8,937	5.1%	3	3,221	4.8%
08.体育施設	11	6,738	3.9%	2	103	0.2%
09.学校教育施設	15	37,259	21.4%	7	17,326	26.0%
10.教職員住宅	48	4,389	2.5%	47	3,475	5.2%
11.消防施設	8	3,572	2.1%	8	908	1.4%
12.公園施設	20	912	0.5%	-	-	-
13.環境衛生施設	15	9,501	5.5%	4	2,399	3.6%
14.その他の施設	39	6,682	3.8%	15	2,107	3.2%
総計	339	174,210	100.0%	185	66,465	100.0%

また、地域別に建物の資産別老朽化率を見ると、下記の表のとおりになります。

社会教育施設と環境衛生施設を除き、ほとんどの施設において熊石地域の建物のほうがより老朽化が進んでおり、八雲地域全体では 47.2%、熊石地域全体では 62.2%の老朽化率となっています。

施設分類別に比較すると、特に地域間で差があるのが医療施設や体育施設、消防施設で、八雲地域で規模の大きな施設の改築等があるためと考えられます。一方、新築後、建て替え等が行われていない地域会館・教職員住宅などでは、地域間の老朽化率にほとんど差がありません。

#### ■地域別・施設分類別の価額及び老朽化率

施設分類	八雲地域		熊石地域	
	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
01.行政施設	223,493	68.9%	177,228	59.8%
02.保健・福祉施設	611,071	56.7%	191,465	62.7%
03.医療施設	6,577,039	31.9%	711,919	47.6%
04.地域会館	124,593	87.6%	8,626	94.5%
05.町営住宅	1,018,504	58.4%	538,781	71.2%
06.産業・観光施設	981,025	42.8%	902,149	57.5%
07.社会教育施設	596,201	55.8%	378,599	53.5%
08.体育施設	949,523	42.0%	0	100.0%
09.学校教育施設	3,991,407	51.9%	707,102	72.5%
10.教職員住宅	119,854	77.7%	45,161	89.1%
11.消防施設	731,267	21.3%	52,284	64.3%
12.公園施設	76,919	68.4%	-	-
13.環境衛生施設	1,930,904	45.6%	728,783	37.8%
14.その他の施設	396,698	68.6%	9,936	93.5%
総計	18,328,498	47.2%	4,452,033	62.2%

※期末帳簿価額は平成 28 年 3 月 31 日現在の金額を記載しております。

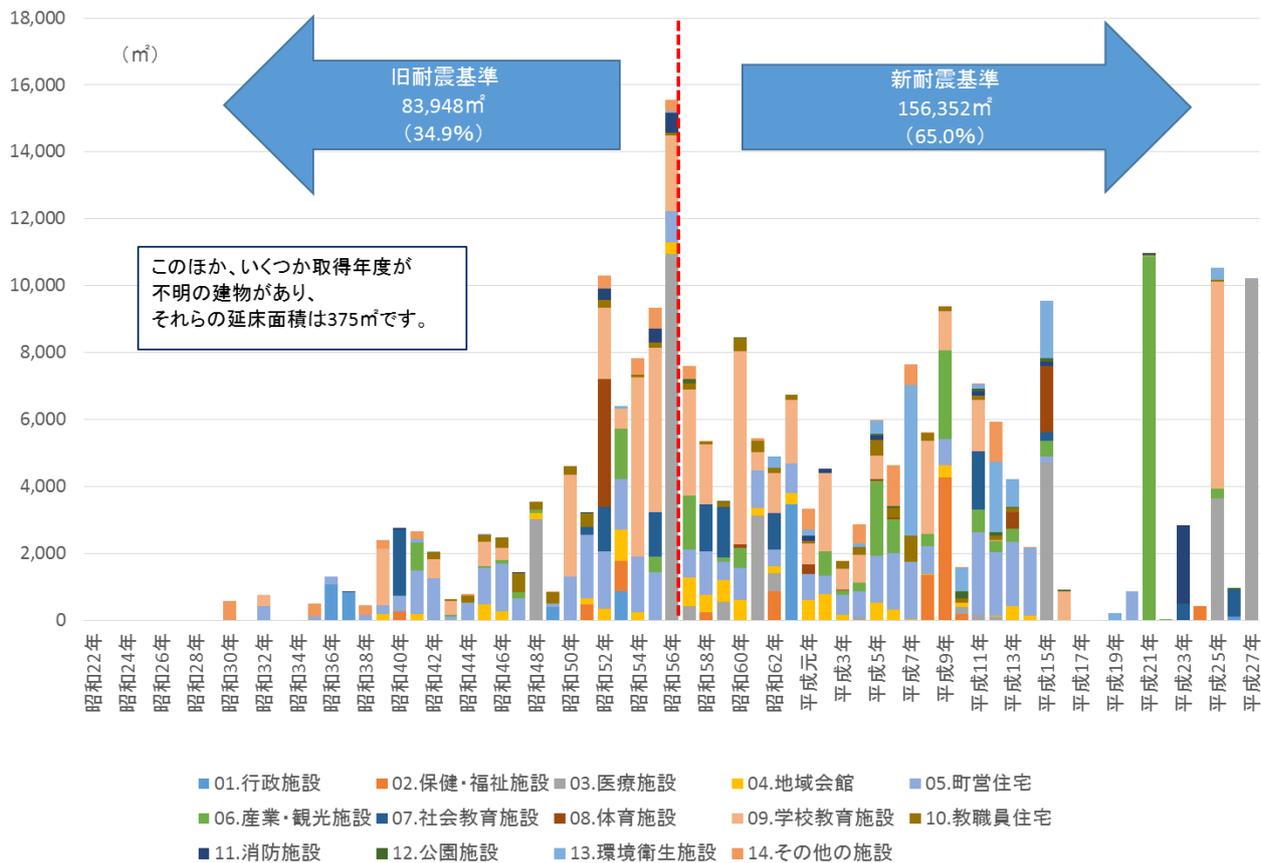
## (6)耐震化の状況

現行の耐震基準（新耐震基準）は、昭和56年（1981年）に改正され、導入されたものです。新耐震基準の考え方は、中規模の地震（震度5強程度）に対しては、ほとんど損傷を生じず、極めて稀にしか発生しない大規模の地震（震度6強から震度7程度）に対しては、人命に危害を及ぼすような倒壊等の被害を生じないことを目標としたものとなっています。

上記をひとつの基準とし、本町における取得年度（建築年度）別の延床面積（㎡）を見ると下図のとおりになります。

本町においては、旧耐震基準（昭和56年以前）に建築されたものが、34.9%を占めています。3割以上の建物が旧耐震構造による建築物となっており、耐震化や長寿命化など、今後の対応を考える必要があります。

### ■取得年度別・分類別延床面積 ※（参考）固定資産台帳データ



## (7)避難施設の状況

現在、本町における避難施設は津波災害時以外の避難場所と津波災害時の避難場所の大きく2種類に分類しています。

### ①津波災害時以外の避難場所

津波災害時以外の避難場所は、八雲地域で31か所、熊石地域で24か所になります。いずれも、地域会館系の施設や学校等が指定されています。

地域	避難場所
八雲地域	31
熊石地域	24
合計	55

### ②津波災害時の避難場所

津波災害時の避難場所は、町所有施設では八雲地域で7か所、熊石地域で12か所になります。いずれも、地域会館系の施設や学校が主な施設になっています。

しかし、八雲地域及び熊石地域それぞれ、津波災害時の避難場所が町所有施設以外でそのほとんどが構成されています。

地域	避難場所
八雲地域	18
熊石地域	37
合計	55

## (8)バリアフリーの状況

本町の主要な施設におけるバリアフリー設備の設置状況は下記のとおりです。

※バリアフリー設備の詳細

- ① 身体障害者用トイレ
- ② 自動ドア
- ③ 手すり
- ④ 点字ブロック
- ⑤ 車いす用スロープ
- ⑥ 車いす用エレベーター（階段昇降機含む）

施設分類	名 称	バリアフリー設備の有無					
		①	②	③	④	⑤	⑥
01. 行政施設	八雲町役場庁舎	○	○		○	○	
01. 行政施設	熊石総合支所		○			○	
02. 保健・福祉施設	どんぐりクラブ	○	○				
02. 保健・福祉施設	シルバープラザ	○	○	○	○	○	
02. 保健・福祉施設	熊石デイサービスセンター	○	○	○	○		
03. 医療施設	おとしべ歯科クリニック	○		○			
04. 地域会館	東部生活館			○		○	
04. 地域会館	三杉町会館					○	
04. 地域会館	出雲町会館					○	
04. 地域会館	内浦生活館					○	
04. 地域会館	山崎1区会館					○	
04. 地域会館	野田生会館					○	
04. 地域会館	栄町会館					○	
04. 地域会館	山越中央会館					○	
04. 地域会館	黒岩会館					○	
04. 地域会館	落部レクリエーションセンター	○		○		○	
05. 町営住宅	出雲町A団地10			○		○	
05. 町営住宅	新栄町団地1			○		○	
05. 町営住宅	新栄町団地2			○		○	
05. 町営住宅	新栄町団地3			○		○	
05. 町営住宅	落部団地1			○		○	
05. 町営住宅	落部団地2			○		○	
06. 産業・観光施設	ファームメイド遊楽部一号館	○	○	○	○	○	
06. 産業・観光施設	青少年旅行村 ふれあい交流館	○				○	

施設分類	名 称	バリアフリー設備の有無					
		①	②	③	④	⑤	⑥
06. 産業・観光施設	トイレットひらたない	○				○	
06. 産業・観光施設	あわびの湯	○	○	○		○	
07. 社会教育施設	八雲町公民館	○	○			○	○
07. 社会教育施設	八雲町立図書館	○	○	○	○	○	○
07. 社会教育施設	八雲町民センター	○	○			○	
07. 社会教育施設	落部町民センター	○	○			○	○
07. 社会教育施設	ふれあい交流センターくまいし館	○	○	○			
08. 体育施設	八雲町温水プール	○	○	○	○	○	○
08. 体育施設	八雲町営スキー場 休憩施設ロッジ	○	○	○		○	
08. 体育施設	八雲町総合体育館	○	○	○		○	○
09. 学校教育施設	落部小学校	○		○		○	
09. 学校教育施設	東野小学校		○	○			
09. 学校教育施設	野田生小学校		○	○			
09. 学校教育施設	山越小学校		○	○			
09. 学校教育施設	山崎小学校		○			○	
09. 学校教育施設	八雲小学校	○	○	○		○	○
09. 学校教育施設	落部中学校		○	○		○	
09. 学校教育施設	野田生中学校	○	○	○		○	
09. 学校教育施設	八雲中学校	○	○	○	○	○	○
11. 消防施設	八雲町消防本部庁舎	○	○	○		○	